

令和2年度放課後等デイサービス 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和3年2月15日

事業所名：育ちの広場すてっぴ

保護者等数26 回収数26 割合 100%

区分	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	62%	23%	0%	15%	
	2 職員の配置数や専門性は適切である	77%	15%	0%	8%	
	3 事業所の設備は、スロープや手すりの設置などバリアフリー配慮がなされている	62%	8%	0%	31%	
適切な支援の提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されている	100%	0%	0%	0%	
	5 活動プログラム*が固定化しないよう工夫されている	81%	4%	0%	15%	
	6 障害のない子どもと活動する機会を設けている	15%	8%	8%	69%	
保護者への説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がされている	92%	8%	0%	0%	
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	96%	4%	0%	0%	家庭で困り事にも相談にのってもらえる。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	100%	0%	0%	0%	いつも困ったこと等助言してもらってありがたい。
	10 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	62%	0%	4%	35%	
	11 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	85%	12%	4%	0%	
	12 定期的に会報やホームページ等で、活動や業務の情報を子どもや保護者に発信している	96%	4%	0%	0%	
	13 個人情報保護に十分注意している	77%	0%	0%	23%	
非常時等の対応	14 緊急時等の対応マニュアルを保護者に周知・説明している	92%	8%	0%	0%	
	15 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	81%	4%	0%	15%	
満足度	16 子どもは通所を楽しみにしている	85%	8%	0%	8%	すてっぴの日は子どもが生き生きしている。
	17 事業所の支援に満足している	88%	12%	0%	0%	連絡しているのにスタッフが忘れていることがある。

この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等デイサービス評価表」により事業所評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

※10%以上増減のあったものに矢印をつけました。

令和2年度放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和3年2月15日

回収数：正規5非常勤11

事業所名：育ちの広場すてっぴ

区分	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	63%	25%	13%	設置基準を満たしているがマンツーマン児童が増え手狭になった。	基準は満たしている。グループ分けして室内利用を工夫していく。マンツーマン児はこれ以上増やさない。
	2 職員の配置数は適切である	81%	19%	0%	基準に適した人数をを配置、保育士教員経験者等有資格者も複数配置。	マンツーマン必要な児童にはスタッフを配置している
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	81%	19%	0%	基準を満たしている。	基準は満たしている。設備説明を雇用契約時に行う。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	75%	19%	6%	毎日、振り返り、評価を行っている。	自己評価活動を有効に利用していく。
	5 アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	88%	13%	0%	少しずつ改善している。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	94%	6%	0%		
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	44%	38%	19%	外部評価は未実施。	法人からの依頼を急ぐ。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	50%	50%	0%	非常勤向けにテーマ研修を年度初めに実施。	非常勤職員の研修が難しい。所内で短時間テーマを決めて定期的の実施していく。	
適切な支援の提供	9 子どもと保護者のニーズや課題を分析した上で、個別支援計画を作成している	94%	6%	0%	サービス利用計画と当事者ニーズに沿って支援計画を作成。	
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	81%	19%	0%	重要説明事項にアセスメント了解項目を加えた。	1月より事業所運営ソフトで実施開始した。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	81%	19%	0%		
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	94%	6%	0%	創作活動、調理活動、野外活動等を適時組み込む。	設定課題のマンネリ化を職員同士で指摘しあい新しい教材を開発する。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	療育プログラムを午前と午後1コマずつ企画。	個別課題もマンネリ化を防止するために課題作成期間を設ける。
	14 子どもに応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	94%	6%	0%		
	15 職員間でその日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	合議したタイムスケジュールを作成。	
	16 職員間でその日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	88%	13%	0%	翌日打合せで実施。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	75%	19%	6%	翌日の打合せで課題共有して記録。	実践で教訓化すべきことはHPにも毎回掲載する。
	18 定期的に事後評価を行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している	94%	6%	0%	非常勤の方にも評価文書を回議する。	読んだらサインをしてもらい確実に読んでもらう。
	19 療育・創作・交流・余暇支援の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	100%	0%	0%		スポーツやeスポーツなど交流活動は感染予防を考えて検討してみる。

区分	チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議に最もふさわしい者が参画している	75%	25%	0%	管理職が参加。	
	21 学校との情報共有、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	88%	13%	0%	学校連携の中身など日報の備考に加える	相談事業所を通すとタイムリーな連携ができない課題を検討。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				該当児童なし。	
	23 就学前に利用していた事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	50%	38%	13%	相談事業所に調整を依頼する。	感染予防を優先する。
	24 障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、情報を提供している	56%	44%	0%	相談事業所に調整を依頼する。	感染予防を優先する。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関の助言や研修を受けている	50%	31%	19%	適当な機会が持てなかった。	感染予防を優先する。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない地域の子ともと活動する機会がある	56%	44%	0%	公園で自然に交流している。特定の施設と関わる計画はない。	公園でスタッフが仕掛けて、地域の子ともと遊んでいる内容をスタッフや保護者に意識して伝えていく。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している				参加呼びかけなし	
	28 日常的に保護者と子どもの発達の状況や課題について共通理解を図っている	94%	6%	0%	連絡帳や送迎時に報告。	
保護者への説明責任等	29 子育て支援として、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	44%	44%	13%	PTは実施していないが相談には乗っている	時間的にも資金的にも保護者との合意や契約が必要なので検討を行う。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	94%	6%	0%	運営内容や負担等については契約時に説明している。	契約内容を履行してもらえるようお願いを繰り返していく。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	88%	13%	0%	できる限り電話・来所・訪問の支援を行っている。	
	32 子どもや保護者からの苦情について、迅速かつ適切に対応している	88%	13%	0%	苦情に対する対応体制は準備している。	保護者からの連絡を失念する等のミスを繰り返さないように連絡帳等のダブルチェックを行う。
	33 定期的に会報等を発行し、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	定期通信・HP毎日発信を実施。600万ビューを得ている。	誰もが発信者になれるよう努力していく。
	34 個人情報に十分注意している	94%	6%	0%	防犯のため写真などHPにはアップしない。	
	35 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	88%	13%	0%	障害や育ちに関する情報を共有できるように努めた。	
非常時等の対応	36 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	38%	25%	38%	理解啓蒙に刊物などの配布ができていない。	感染予防を優先する。
	37 緊急時対応、防犯、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	63%	31%	6%	マニュアルや実施内容を会報などで連絡。	
	38 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	81%	19%	0%	毎年2回実施している。	
	39 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	75%	19%	6%	虐待防止にコミュニケーション支援を重視している。	大声や威嚇的な指導、悪意の無視などについて職員全体で許さない研修を行う。
	40 身体拘束について、保護者に事前に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している	50%	44%	6%	該当児童はいない。	該当児なし
	41 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	50%	44%	6%	把握している	把握済み
42 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	81%	19%	0%	回議による文書共有を行う。		

※ 昨年度と10%の増減のある項目には矢印をつけています（但し、増加しても70%未満の結果は省く）

令和2年度自己評価と保護者評価について 第3者意見

評価日 : 令和3年2月15日

第3者評価者名 : 山川 秀一

事業所名 : 育ちの広場すてっぷ

区分	評価	助言
環境・体制整備	子どもの活動環境に柔軟性が感じられ、その時々の子どもの特性や状況に応じて支援が考えられる体制になっていると感じられます。	その時の条件によって（例えば措置しているメンバーや人数）できることが限られているとは思いますが、長期的な評価の視点で成果が見えてくることを期待しています。
適切な支援の提供	様々な支援の要望を持っている子どもたちが、自分たちで考えて行動できる場面をみることがあります。決まったパターンが必要な子どもたちの中に柔軟な対応をしようという意図もあり大切だと感じます。	障害や困難のある子どもたちにとって、他の子どもたちとの交流や人間関係はすぐにできることではないと思われます。ちょっとした場面や限られた人との関係の中で培われていく時間が必要です。それを大事にする大人の目があることがステップの取組の良さなので期待しています。
保護者への説明等	ホームページやブログの中でいろいろなことを伝えていることが利用している人だけでなく、他の人にも参考になります。発信は大変だと思いますが、ぜひ継続してほしいです。	利用している時だけのことではなく、子どもたちが帰った家庭のことまで考慮をしている様子がわかります。スムーズにはいかないことも多いとは思いますが、大切な視点として共有して行ってほしいです。
その他		